

Ⅱ—1 品川地区モデルオフィス群

調査先：

コクヨ	：エコライブオフィス
NEC	：イノベーションワールド
住 所	：東京都港区 品川駅港南口周辺地区
開催日	：2011年7月11日
参加者	：9名
記	：渡辺 督*

1. はじめに

当委員会では、注目技術の技術開発やビジネス展開を行っている各種研究所及び企業の調査、見学を行い、会員会社に広く紹介していく活動を行っている。

本年の当委員会の重点施策のひとつに、環境に関する技術調査がある。近年、持続可能な社会の実現ために、さまざまなオフィスで低炭素社会へ向けた取り組みが行われている。また、折しも3月11日に発生した東日本大震災の影響から、電力の逼迫が予想され、オフィスにおいても節電の必要性が叫ばれている。

このような状況下において、品川地区に位置し、環境や持続可能な社会に対する実験的な取り組みを自ら行い、顧客に提案している二つのモデルオフィスを見学する機会を得たので報告する。

■コクヨエコライブオフィス

住所：東京都港区港南1丁目8番35号

電話：03-3474-6006

営業時間：9：00-17：30

<http://www.kokuyo.co.jp/ecology/ecooffice/>

■NECイノベーションワールド

住所：東京都港区港南2丁目16番1号

品川イーストンタワー7F

営業時間：9：00-17：00

<http://www.nec.co.jp/bsc/>

2. 各モデルオフィスの解説

各モデルオフィスについて訪問順に解説する。

2.1. コクヨエコライブオフィス



(提供：コクヨファニチャー株式会社様)

2.1.1. 施設概要

JR品川駅すぐ近くのビル群にあるコクヨ品川オフィスの5階フロア全体につくられたコクヨエコライブオフィスは、2008年11月にコクヨ社有ビルを改装する形でオープンした。本オフィス創設のコンセプトは1)生産性の向上、及び2)エコ&クリエイティブである。

* 技術調査小委員会委員

エコ&クリエイティブのコンセプトは、「マイナス思考でなく、より創造的にエコを実践できる仕組みをつくる」ことを意味している。

当オフィスは中央部に吹き抜けのトップライトを設けた「OFFICE」、セミナーなどの開催にも使われる「STUDIO」、その名の通り庭のような「GARDEN OFFICE」の3つのエリアからなっている。各部の詳細について見学した内容を基に説明する。

2.1.2. 見学内容

1) OFFICE

- ・空調、照明：空調や照明に工夫を凝らしてエコを実現している。空調、集合照明はいずれも人感センサを用いてON/OFFを行っている。また、天井照明と比べ消費エネルギーが1/3程度で済む手元照明にはLEDを採用しており、働き方に応じて調光できるようになっている。また、オフィス中央にある吹き抜けから外光を積極的に取り入れ、照明の照度を落とすことも行っている。

- ・太陽光発電：屋上には太陽光パネルがあり、そこで発電した電力を用いて、PC用のバッテリーをDC充電している。働き方・職種によっては、バッテリーを用いて固定机以外の空間で仕事をしており、それにより生産性を高めている。

- ・フリーアドレス制：創造性を高める、またコミュニケーションを促進するための刺激を与えるために、座席は一部フリーアドレス制をとっている。座席は予約システムにより事前に設定できる。また、働き方にもよるが、最近はフリーアドレスよりもチーム単位で移動するチームアドレスが増える傾向にある。チームアドレスにより、チーム単位になっている座席も、周囲の他のチームから見えるようになっており、触発を与えるきっかけになっている。さらに、バッテリーを搭載したテーブルを使用して、自由な場所で仕事を行える取り組みも行っている。

- ・ペーパーレス：ペーパーレスに対する取り組みがいくつか行われている。ストック情報に関して、例えばファイル類は個人用シェルフに最低限のものの保管はできるが、それ以外の例えば営業用の提案書のような

ものは、個人がスキャンしてサーバ上の書庫へ電子情報が格納し、それらをコンシェルジュが管理している。しかし、フロー情報のペーパーレス化に関してはあまり進んでいないとのことである。

- ・MFP：MFPはフロア内に2台あり、カード認証をして出力するように設定されている。MFPは通路に面して設置され、人が偶発的に集まることでなされるコミュニケーションを活性化するための仕掛けの一部を構成している

2) STUDIO

OFFICE及びGARDEN OFFICEに隣接した共創空間。セミナーや研修会を開催し、社内外の人との交流が行える。

STUDIO内に3室ある会議室は、間伐材やアロマを利用して創造性を高めるための工夫がされている。

3) GARDEN OFFICE

「自然」の中で四季を感じながら働くワークスタイルの提案を行っている。光熱費やCO₂の削減が行えることで社員のエコ意識が向上する。

- ・フラクタル日よけ：風を通す日よけにより、晴れた日でも木漏れ日の中で仕事が行える。

2.1.3. 生産性

コクヨではエコ&クリエイティブを遂行しながら生産性向上のための、いくつかの仕組みを設けている。

- ・iPad®の運用：おもに営業部門が入っている霞が関のオフィスで試験運用されている。表示機能を利用した顧客へのプレゼンテーションや、見積もり書の作成のために使用されている。

- ・IDEA Lab：公告代理店とのコラボレーションから生まれた発散と収束を行える空間。周囲にホワイトボードを配し、アイデアの見える化を行い、若いメンバーでも意見を出しやすいなどのメリットがある。このような取り組みは、アナログ的であることから発想に向いているが、情報の蓄積の観点から今後デジタルとの融合も考えてゆくとのことである。

- ・生産性の評価：エコだけでなく、生産性がどれだけ上がったかを評価するために、残業時間の増減、プロジェクトの進展度合いといった客観評価から、従業員

の満足度アンケートといった主観評価までを行うことで、生産性の評価を行っている。

2.1.4. エコ

国内ではオフィスからの CO₂ 排出量が 1990 年から 2008 年の間に 41.3%も増加している。これにはオフィスの床面積の増大や夜遅くまでの業務、OA 機器や ICT（情報通信技術機器）の増加といったことに起因している。

それに対し、2007 年コクヨは方針として ECO×2 運動を実施して、自社の基準項目に合わせて製品を評価し、チェックの結果×があると製品を廃版にしている。また、2009 年 11 月末には、ルールにより光熱費を削減するのではなく、エコ意識と創造性により達成するというコンセプトの元、年間 CO₂ 排出量を 43.6%削減した。ここにおいて主に寄与したのは空調とセンサ類による制御によるものであるが、ゾーニングや働き方の変化により、達成しているものもある。

社員の積極的なエコ意識を高めるために、オフィスの各所に設置したカードリーダーに、各自のエコ活動報告の入力ができる「エコピヨ」というシステムが導入されている。

2.1.5. 謝辞

見学当日アテンドをして頂きましたコクヨ（株）RDI センター斎藤様、コクヨファニチャー（株）榎本様はじめ、お世話になりましたコクヨエコライブオフィスの方々に深く御礼申し上げます。

2.2. NEC イノベーションワールド

2.2.1. 施設概要

品川イーストンタワー7階フロアにある NEC イノベーションワールドは、「人と地球にやさしい情報社会」の企業の姿を具体化し、体験できるショールームである。展示ブースは「グローバル経営」、「サステナブル経営」、「企業インフラ改革」、「ワークスタイル改革」、「販売改革」、「サービス・現場改革」の6つから構成されており、48の展示がある。（2011年7月時点）。今回は、見学の趣旨と関係の深い「サステナブル経営」、「企業インフラ改革」、「ワークスタ

イル改革」の中の6つの展示及び「執務ゾーン」の見学を行った。

2.2.2. 見学内容

1) ワークスタイル改革

これからのワークスタイルとして、NEC が取り組むワークスタイル革新のコンセプト及び NEC が考える一歩先の働き方を、デモを交えて紹介して頂いた。

・IP テレフォニー/役員会議

クラウド+グループウェアの HDTV 会議システム。社内 SNS やチャットを用いた情報共有やコミュニケーションが行え、iPad®を用いたマネージメントポータルや Web 教育などとも連動している。一方役員会議向けソリューションではタッチペンを用いたインターフェイスによって操作性を向上させている。

2) サステナブル経営

・省エネオフィスサービス「エネパル PC パック®」

オフィスの PC の消費電力が見える化し、利用者の行動パターンに応じて無駄な電力や CO₂ を自動的に削減できるようにするソフトウェア。管理部門での一元管理も可能。

・有機 EL 照明

省エネに対する効果だけでなく、面発光であるため目にやさしく、寿命は 15000 時間となっている。環境負荷物質低減及び紫外線レスといったメリットもある。デザイン性の高さを打ち出している。現在、照度は 60lm/W であるが、将来的には 200lm/W まで上げられる見込みである。

3) 企業インフラ改革

・Android®搭載クラウド端末「LifeTouch®」

ブロードバンド対応の多機能クラウド端末。感覚的に操作が可能なユーザーインターフェイスを採用しており、HOME、Office どちらのシーンでも使える。

・UNIVERGE オフィスソリューションパック®

オフィスのペーパーレス化、情報共有や社外からのアクセスを低コスト、迅速かつ安全に実現するためのソリューション。iPad®を用いてオフィス内の PC を遠隔から操作するデモの実演があった。

4) 執務ゾーン（リファレンスオフィス）見学

約 1000 名の NEC 社員が実際に活用、検証している新しいワークスタイルを導入したオフィスである。フリーアドレス制、非接触カードによる入退室管理やペーパーレスを導入している。

ペーパーレス導入のためにいくつかの工夫をしている。書類はスキャナーを使用し、電子化してサーバへ保管する。ストックした資料の検索はフォルダ内であればドキュメント管理ソフトで行える。PC はノート PC にモニターを接続して参照できるようになっており、紙の書類の閲覧を減らしている。デスクには引き出しがなく、個人用のロッカーに PC などを格納しているが、紙の書類の保管はしない。オフィス内にプリンターが 2 台あったが、社内向けの印刷はしていない。

また、フリーアドレス制を導入するための工夫もなされている。無線 LAN や携帯電話の位置情報から行き先が特定され、表示ツールによる見える化がなされている。営業職が多いため、在籍者の 6~7 割程度しか座席が設定されていない。また申告によるテレワークも行え、震災時には役に立ったとのことである。

さらに、前述の HDTV 会議室システムにより拠点間のコラボレーションの促進も行われていた。

2.2.3. 謝辞

見学内容のご提案から、技術小委員会開催のための会議室のご用意までして頂きました NEC 製造・プロセス営業本部の西田様、後藤様、またプレゼンテーションやデモでお世話になりました NEC の皆様方に、深く御礼を申し上げます。

3. 終わりに

今回、品川地区にある実験的な二つのモデルオフィスを見学する機会を得た。

コクヨでは照明、空調といった設備改修の効果だけでなく、CO₂削減のために社員の意識や働き方による効果の重要性を訴求し、合わせて生産性の向上を図っている。それに対し、NEC では最新の ICT を駆使し、省エネを始めとしたさまざまな業務課題に対するソリューションを提案している。アプローチの仕方は様々だが、エコの実現をしながら、業務効率をあげていくと

いう両立が難しい課題に取り組んでいるという点は同じであった。

また、ペーパーレスへの取り組みについても、コクヨでは現場の声からのボトムアップ型であるのに対し、NEC では経営からのトップダウン型をとっており、オフィスの風土によりさまざまなアプローチの仕方がなされることが印象的であった。

さらに、ペーパーレス化が進むオフィスでは、設置される MFP やプリンターの台数が少なくなっているが、このようなオフィスにおいて MFP、プリンターの周囲の空間が「人が集まる場所」となっているという事例も見られた。このあたりに今後の MFP、プリンターの開発に対するヒントがあるという印象をうけた。

総じて、サステナブルの観点において、オフィスの急激な変化を実感することができ、非常に有意義な調査であった。

以上

禁 無 断 転 載

2011年度「ビジネス機器関連技術調査報告書」 “Ⅱ－1”部

発行 2012年4月

一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)

技術委員会 技術調査小委員会

〒105-0003 東京都港区西新橋三丁目 25 番 33 号 NP 御成門ビル

電話 03-5472-1101(代表) / FAX 03-5472-2511